

第 41 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	市野ゼミ II	チーム名	KING KAZU
タイトル	Everyday, スキキライ		
テーマ群	a)理論・情報		
メンバー	秋元翔・梅村奈央・小笹亜未・神田裕介・北村藍子・黒田良隆・古我知亮・ 譽田貴久・清水奈々子・高田翔太・田中博之・中川葉津紀・橋本明良・ 本同正一・村地薫・森崎浩平・山本祥太郎・山本大夢・山本芽依・山本瑤子		
研究計画内容	<p>人にはそれぞれ好きなものがあるだろう。服・スポーツ・季節…人にはそれぞれ趣向や趣味がある。そこで人は好きや嫌いで全ての物事を判断しているのだろうか。私たちはそれを 3 つの具体例から研究する。</p> <p>① ボランティア</p> <p>2011 年 3 月 11 日、東日本大震災が起き、ボランティア活動に興味を示す人々が多くいる。そのボランティアは好きか嫌いかで活動をするかしないかを判断しているのだろうか。困っている人々を助けたいと思う人ももちろんいる。しかし、就職活動に役立てるためにボランティア活動をする人もいるだろう。また、人々を助けることで自らの満足感を得たいと考えている人もいるのではないだろうか。</p> <p>② 同性愛</p> <p>恋愛では異性愛が一般的ではあるが、世界には同性愛者も少なからずいる。しかし、同性愛者が異性愛者を好きになってしまった場合、その対象の異性愛者を傷つけてしまう可能性がある。また、自分の中でとどめてしまっているときは、自分自身を傷つけてしまうときもある。そういったとき、好きという感情があるにもかかわらず、人を傷つける。</p> <p>③ ブランド</p> <p>人にはそれぞれ好きなブランド・嫌いなブランドがあるだろう。その中には「このブランドの質・デザインが好きだからよく買う」という人もいれば、そのネームバリューのみで購入する人もいるのではないだろうか。逆に名前だけで嫌われてしまえば、いかにその質がよくとも、嫌った消費者に購入を求めるのは難しい。</p> <p>これらの 3 つはそれぞれ好きや嫌いで判断されているわけではなく、「好きだけ我慢」「嫌いだけ仕方なくする」ことがある。人は好き嫌いでは物事を判断していない場合もあるように見える。</p> <p>人は好きや嫌いで素直に判断し行動すべきなのだろうか。それとも、やはり好きや嫌いだけで判断せずに、我慢しながら行動すべきなのだろうか。</p>		